

令和元・2年度地区指定研究協力校
「学力向上(国語科)」研究公開
霧島市立国分南小学校

1 研究主題

子どもたちが「読むこと」の楽しさを感じ、主体的に学ぼうとする国語科授業の在り方～学びを開く「まほうのカギ」をいかして～

2 研究発表

霧島市立国分南小学校では、令和元年度から2年間にわたり、地区指定研究協力校として、「子どもたちが「読むこと」の楽しさを感じ、主体的に学ぼうとする国語科授業の在り方」を研究主題に、研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、言葉による見方・考え方を働かせて、主体的に説明的な文章を読むために、「まほうのカギ」を活用した具体的な実践が紹介されました。また、必要感や知的好奇心をもつような学習が展開されるための言語活動の工夫を行うことで、国語科の授業の楽しさを実感するようになった児童の変容も紹介されました。

なお、研究仮説及び研究内容・具体的な取組は以下のとおりです。



【全体会における研究発表の様子】

【研究仮説1】

学びを開く「まほうのカギ」と出合わせ、それをいかした学習が展開できるような工夫を行えば、子どもたちに「読むことの楽しさ」を味わわせ、子どもたちが主体的に取り組む国語科授業ができるのではないか。

【研究仮説2】

子どもたちが「読む」必要感をもって学習に取り組み、知的好奇心を働かせて考えたり、協働的な学びを展開したりするような言語活動を行えば、子どもたちに「読むことの楽しさ」を味わわせ、子どもたちが主体的に取り組む国語科授業ができるのではないか。

【研究内容及び具体的な取組】

- 1 学びを開く「まほうのカギ」をいかした指導法の工夫
 - (1) 「まほうのカギ」の系統的な整理・分類
 - (2) 「まほうのカギ」をいかす言語活動の工夫
 - (3) 「まほうのカギ」の活用を視覚化するための工夫
- 2 子どもたちが意欲的に取り組むような言語活動の工夫
 - (1) 「読む」必要感をもったり、知的好奇心を働かせたりして学習に取り組むような言語活動の工夫
 - (2) 対話的で協働的な学びができるような言語活動の工夫
- 3 国語科学習における土台となる力を培うための取組の工夫
 - (1) 聞く力を高める取組
 - (2) 言語力を高める取組

3 公開授業

公開授業では、2年生と6年生の2学年の授業が公開されました。参加者は配布されたフェイスシールドを付け、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いました。

第2学年では、和田 梨恵教諭が教材「おにごっこ」を用いて、単元「だいじなことに気をつけて読み、分かったことを知らせよう」の授業を行いました。本授業では、「まほうのカギ」である理由を活用し、遊び方とその理由を正確に読み取るとともに、読み取った内容と自分の経験を結び付けて自分の考えをもつ、主体的な学びの姿が見られる授業が展開されました。また、発問により、「まほうのカギ」の仮説を活用させ、読み取った内容を反証的な視点で確かめさせる活動の工夫がなされました。



【第2学年 授業参観の様子】

第6学年では、田中 裕己教諭が教材「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」を用いて、単元「筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう」の授業を行いました。本授業では、対話的な活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりする視点として「強固」「修正」「付加」を示すことで、学習のゴールの見通しをもたせる工夫がなされていました。また、思考の過程を可視化し、教師の指導に生かしたり、児童が自身の考えの変容を自覚化したりするためにホワイトボードミーティングを活用した取組がなされました。



【第6学年 授業参観の様子】

4 授業研究会

公開授業の2年、6年に分かれて行われた授業研究会では、研究内容の検証授業として行われた各授業について、研究の仮説に基づいた協議の視点の下、ワークショップ型で行われました。全学年を通した系統的な「まほうのカギ」の活用についての質疑や参加者の実践を交えた提案等、活発な協議が行われました。

次は、参加者の感想の一部です。



【授業研究の様子】

- ・ 普段から「まほうのカギ」を活用することで、子どもたちからも意欲的な発言が出てきたと感じる授業だった。話し合いも楽しく行われており、それぞれの考えが深まっている様子も見られて、すばらしいと感じた。
- ・ 議論を通して、資料や自分の経験の根拠を組み合わせながら主張を再構築している子どもの姿が見られた。自分が実践する上で、とても参考になった。